

事業評価票（資産分析を行う事業）

1	調査指導船「やしお」の代船建造（産業労働局）	管理・運用開始	平成 6 年度																								
資産の概要		・「やしお」は、伊豆諸島北部海域における資源管理型漁業の推進、安全操業の確保等を目的として、水産資源調査・監視活動等を行うために導入された船舶である。																									
現状分析	需要状況（利用・稼働等）	【年間運航実績】 ・平成27年度 154日、26年度 163日、25年度 147日																									
	維持管理コスト	・維持管理費（所有）/年間：114,004千円 ≪単位当たりコスト≫平均 736千円/日 ・平成27年度 126,955千円、26年度 101,475千円、25年度 113,583千円																									
	老朽化状況	・稼働年数22年/耐用年数30年	老朽化率 73 %																								
	課題・問題点	・都には、広大な排他的経済水域が存在しており、4隻の漁業調査指導船が分担して、水産資源調査・監視活動を実施しているが、現在の体制では、小笠原海域における違法操業等への対応に際し、約40日の監視活動空白期間が発生する。																									
今後の対応（局計画）		・更新期の「やしお」を航行能力の高い、最新の監視機器を備えた船舶として建造し、より機動的な監視体制を構築する。																									
見積概要（局評価）		<ul style="list-style-type: none"> 世界的な水産物需要の高まりから、外国漁船による大規模な密漁・違反操業が横行しているため、広域監視に対応するとともに、精密な漁場調査を行えるよう、「やしお」の耐久性や居住性、調査能力を向上させ、かつ悪天候での航行や長期航海が可能な代船を建造する。 平成29年度は、代船建造に着手する。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td style="text-align: right;">29年度見積額</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">370,289 千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">28年度予算額</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">6,815 千円</td></tr> </table>		29年度見積額	370,289 千円	28年度予算額	6,815 千円																				
29年度見積額																											
370,289 千円																											
28年度予算額																											
6,815 千円																											
財務局評価		<ul style="list-style-type: none"> 都海域における外国漁船の違法操業等への対応により漁場荒廃や水産資源減少に対応することは重要な取組であり、更新も現在の老朽化率等から妥当と認められることから、見積額のとおり計上する。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td style="text-align: center;">妥当</td><td style="text-align: center;">見直し</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">見送り</td><td style="text-align: center;">その他</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">29年度予算額</td><td style="text-align: right;">370,289 千円</td></tr> </table>		妥当	見直し	見送り	その他	29年度予算額	370,289 千円																		
妥当	見直し																										
見送り	その他																										
29年度予算額	370,289 千円																										
2	河川水面清掃船建造（建設局）	管理・運用開始	平成 19 年度																								
資産の概要		・河川水面清掃船は水面に浮かぶごみを回収し、河川の清掃を行うために導入された船舶である。																									
現状分析	需要状況（利用・稼働等）	【年間使用回数】（1隻平均） 平成27年度 258回、26年度 256回、25年度 257回																									
	維持管理コスト	・維持管理費（1隻リース平均）/年：9,590千円（保守・修理経費込み）																									
	老朽化状況	・稼働年数10年/耐用年数12年	老朽化率 83 %																								
	課題・問題点	・現在使用する船は、船齢が耐用年数に達していないにもかかわらず故障等が多い。 ・修理については、故障・損傷状況の確認や原因調査等の過程を経るため、修理完了までに長い期間を要し、その間、船の使用ができない。																									
今後の対応（局計画）		・河川水面清掃船の更新については、新規建造を行うことで、河川水面清掃業務を着実に実施していく。																									
見積概要（局評価）		<ul style="list-style-type: none"> 現在リースにて運用している河川水面清掃船を都所有にすることでライフサイクルコストの低減を図る。なお、平成29年度は建造に向けた詳細設計費を見積もる。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td colspan="5" style="text-align: center;">≪リースと購入とのコスト比較(1隻/年)≫ (単位:千円)</td></tr> <tr><th>区分</th><th>リース料</th><th>減価償却</th><th>維持管理費(平均)</th><th>合計</th></tr> <tr><td>(現行) リース</td><td style="text-align: right;">9,590</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: right;">9,590</td></tr> <tr><td>(更新後) 所有</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: right;">3,381</td><td style="text-align: right;">3,596</td><td style="text-align: right;">6,977</td></tr> </table> <p>※額は想定であり、変動する可能性がある。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td style="text-align: right;">29年度見積額</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">10,600 千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">28年度予算額</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">- 千円</td></tr> </table>		≪リースと購入とのコスト比較(1隻/年)≫ (単位:千円)					区分	リース料	減価償却	維持管理費(平均)	合計	(現行) リース	9,590	-	-	9,590	(更新後) 所有	-	3,381	3,596	6,977	29年度見積額	10,600 千円	28年度予算額	- 千円
≪リースと購入とのコスト比較(1隻/年)≫ (単位:千円)																											
区分	リース料	減価償却	維持管理費(平均)	合計																							
(現行) リース	9,590	-	-	9,590																							
(更新後) 所有	-	3,381	3,596	6,977																							
29年度見積額																											
10,600 千円																											
28年度予算額																											
- 千円																											
財務局評価		<ul style="list-style-type: none"> 現在の船舶のリース期間終了に伴い、都所有の建造船に切り替えることで、修理による停止期間の低減や将来的な維持管理コストの縮減が見込まれることから、見積額のとおり計上する。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td style="text-align: center;">妥当</td><td style="text-align: center;">見直し</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">見送り</td><td style="text-align: center;">その他</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">29年度予算額</td><td style="text-align: right;">10,600 千円</td></tr> </table>		妥当	見直し	見送り	その他	29年度予算額	10,600 千円																		
妥当	見直し																										
見送り	その他																										
29年度予算額	10,600 千円																										

事業評価票（資産分析を行う事業）

3	清掃用起重機の更新（港湾局）	管理・運用開始	平成 5 年度																				
資産の概要		・清掃船からごみ及び沈木を引き上げのための起重機を保有している。																					
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	【稼働状況】 ・平成27年度243日、26年度244日、25年度244日																					
	維持管理コスト	・維持管理費（3か年平均）2,933千円 ・平成28年度4,000千円、26年度1,818千円、24年度2,982千円																					
	老朽化状況	・稼働年数23年／耐用年数8年	老朽化率 100 %																				
	課題・問題点	・耐用年数を大幅に超過しており、クレーン本体の老朽化が著しいため、作業能力に問題が生じている。																					
今後の対応 (局計画)		・老朽化にかかる更新に合わせて起重機を購入し、機能性の向上を図る。																					
見積概要 (局評価)		<ul style="list-style-type: none"> 当該起重機は東京港内で日々発生するごみおよび沈木を清掃船から陸上へ揚陸しており、東京港内の船舶の安全航行に不可欠な役割を担っているが、老朽化が著しく、性能劣化が進んでいる。また、塩害による金属疲労も危惧されている。 現在使用している起重機を更新し、安全性・作業能力の向上を図る。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td style="text-align: right;">29年度見積額</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">75,600 千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">28年度予算額</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">- 千円</td></tr> </table>		29年度見積額	75,600 千円	28年度予算額	- 千円																
29年度見積額																							
75,600 千円																							
28年度予算額																							
- 千円																							
財務局評価		<ul style="list-style-type: none"> 起重機は港湾内清掃業務の欠かせない役割を担っているものの、現行機は老朽化による損傷が多く、維持管理経費が増大しているため、更新の必要性が認められることから、見積額のとおり計上する。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td style="text-align: center;">○ 妥当 ○</td><td style="text-align: center;">見直し</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">見送り</td><td style="text-align: center;">その他</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">29年度予算額</td><td style="text-align: right;">75,600 千円</td></tr> </table>		○ 妥当 ○	見直し	見送り	その他	29年度予算額	75,600 千円														
○ 妥当 ○	見直し																						
見送り	その他																						
29年度予算額	75,600 千円																						
4	実習船「大島丸」の更新（教育庁）	管理・運用開始	平成 8 年度																				
資産の概要		・実習船「大島丸」は大島海洋国際高校における航海実習を行うための船舶である。																					
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	【航海日数】 ・平成27年度:61日 26年度:67日 25年度:133日																					
	維持管理コスト	・維持管理経費 単年度 73,000千円（平成21～25年度平均）																					
	老朽化状況	・稼働年数21年/耐用年数30年	老朽化率 70 %																				
	課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 現在、使用している実習船は他道府県の実習船の稼働年数と比較しても長期となっており、修繕費用が高額となっている。 充実した海洋教育を実施するために、実習船の海洋調査機能の強化が課題である。 																					
今後の対応 (局計画)		・実習船「大島丸」の更新（新規建造）を行う。																					
見積概要 (局評価)		<ul style="list-style-type: none"> 現在運用している実習船を更新することで、維持管理に係る経費の縮減を図る。平成29年度は設計に係る経費を見積もる。 <p style="text-align: right;">(単位:千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>継続使用</th> <th>新船建造</th> <th>差引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">34,432</td> <td style="text-align: right;">65,142</td> <td style="text-align: right;">30,710</td> </tr> <tr> <td>維持管理経費</td> <td style="text-align: right;">73,000</td> <td style="text-align: right;">41,000</td> <td style="text-align: right;">△ 32,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">107,432</td> <td style="text-align: right;">106,142</td> <td style="text-align: right;">△ 1,290</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td style="text-align: right;">29年度見積額</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">11,301 千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">28年度予算額</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">10,901 千円</td></tr> </table>		区分	継続使用	新船建造	差引	減価償却費	34,432	65,142	30,710	維持管理経費	73,000	41,000	△ 32,000	合計	107,432	106,142	△ 1,290	29年度見積額	11,301 千円	28年度予算額	10,901 千円
区分	継続使用	新船建造	差引																				
減価償却費	34,432	65,142	30,710																				
維持管理経費	73,000	41,000	△ 32,000																				
合計	107,432	106,142	△ 1,290																				
29年度見積額																							
11,301 千円																							
28年度予算額																							
10,901 千円																							
財務局評価		<ul style="list-style-type: none"> 現在使用している実習船は建造から20年が経過し、維持管理経費が増大していることから更新の必要性は認められる。 また、更新により維持管理コストの縮減も図られることから、見積額のとおり計上する。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td style="text-align: center;">○ 妥当 ○</td><td style="text-align: center;">見直し</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">見送り</td><td style="text-align: center;">その他</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">29年度予算額</td><td style="text-align: right;">11,301 千円</td></tr> </table>		○ 妥当 ○	見直し	見送り	その他	29年度予算額	11,301 千円														
○ 妥当 ○	見直し																						
見送り	その他																						
29年度予算額	11,301 千円																						

事業評価票（資産分析を行う事業）

5	X線透過装置の更新（東京消防庁）	管理・運用開始	平成 7 年度						
資産の概要		<ul style="list-style-type: none"> X線透過装置は正確で客観性の高い出火原因究明と火災調査結果に基づく再発防止指導を行うため、火災現場から収去した物件を科学的に検査するための装置である。 							
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	【稼働状況】 ・平成27年度 119件595時間、26年度 110件550時間、25年度 92件460時間							
	維持管理コスト	・維持管理費（所有）/年間：1,505千円 ≪単位当たりコスト≫ 3年平均 14千円/件 ・平成27年度 0千円、26年度 0千円、25年度 4,515千円							
	老朽化状況	稼働年数10年/耐用年数 5年	老朽化率	100 %					
	課題・問題点	・老朽化が進み、耐用年数を越えた運用となっている。 ・収去した物件を破壊することなく、内部の部品等の状況を検査するため、機能向上が必要である。							
今後の対応 (局計画)		・現状の需要状況を考慮のもと、検査に必要な機能を備えたX線透過装置に更新することで、老朽化へ対応するとともに、維持管理コストを縮減。							
見積概要 (局評価)		・更新に当たっては、リースと購入について新装置の耐用年数である10年間のコスト比較を行った結果、購入で更新することにより、経費の縮減を図る。							
		<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="background-color: #FFFF00;">29年度見積額</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">34,755 千円</td></tr> <tr><td style="background-color: #FFFF00;">28年度予算額</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">- 千円</td></tr> </table>		29年度見積額	34,755 千円	28年度予算額	- 千円		
29年度見積額									
34,755 千円									
28年度予算額									
- 千円									
財務局評価		・本装置は、火災原因の特定に重要な役割を果たしており、老朽化に伴う更新の必要性が認められるとともに、更新に際しては、適切にコスト比較を行っていることから、見積額のとおり計上する。							
		<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">妥当</td> <td>見直し</td> </tr> <tr> <td>見送り</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #FFFF00;">29年度予算額</td> <td style="text-align: right;">34,755 千円</td> </tr> </table>		妥当	見直し	見送り	その他	29年度予算額	34,755 千円
妥当	見直し								
見送り	その他								
29年度予算額	34,755 千円								